

2022年度入試

入学試験問題集

【東京成徳大学 経営学部 経営学科】



東京成徳大学 東京成徳短期大学

目 次

総合型選抜 9月入試 小論文	1
総合型選抜 10月入試 小論文	3
総合型選抜 12月入試 小論文	5
学校推薦型選抜（公募入試／指定校入試） 小論文	6
外国人留学生入試 小論文	8
編入学試験 小論文	9
一般選抜 D日程入試 総合型問題（学部学科別）	10
出題意図	12

「一般選抜 A 日程・B 日程・C 日程」の問題は、
「2022 年度入試問題集 一般選抜 A 日程・
B 日程・C 日程（大学・短期大学共通）」に
掲載しています。

●総合型選抜 9月入試

【小論文】（試験時間：60分）

以下の課題文を読み、後の問題に解答しなさい。

〔課題文〕

林野庁では、健康、観光、教育等の多様な分野で森林空間を活用して、山村地域における新たな雇用と収入機会を生み出す新たなサービス産業として「森林サービス産業」の創出・推進に取り組んでいます。このような産業が創出・推進されることで、具体的には、山村のサテライトオフィスや研修・宿泊施設で両親が仕事をしながら、家族で森林浴等の健康づくり、自然探勝、トレッキング等の自然体験を楽しんだり、さらには子供たちも、森のようちえんや木育等森林を通じた体験活動、学びの場を体験したりすることができるようになります。森林総合研究所の調査によれば、森林浴により、神経系での脳活動や交感・副交感神経活動がリラックスすること、内分泌系でコルチゾール濃度等が低下し、ストレスが減少すること、免疫系では、NK（ナチュラルキラー細胞）活性が向上することで、体全体の抵抗力を高め病気になりにくい体を作る効果があると評価する研究成果も報告されています。

また、これらの森林サービス産業を地域の担い手が提供することで、地域に雇用が生まれるとともに、森林を持続可能な形で維持管理することにもつながります。

後者については、後述のユニリーバ・ジャパンが始めている、TeamWAA!のような取組が始まっています。

さらに、都市部と地方部に二つの拠点を持ち、定期的に地方部で過ごしたり、仕事をしたりする二地域居住は、継続的に地域循環共生圏の創造に関わるができる可能性のあるライフスタイルです。二地域居住者が農林業や地域活動等に携わる場合、当該居住者を雇用する企業にとっては、農山村のことを理解する従業員の拡大により地域の課題解決に向けた新規ビジネスの展開につながる可能性があります。受け入れ側にとっては、人口減少する地域コミュニティの活性化や、遊休農地の解消や新たな仕事の創造に寄与します。二地域居住も休日半農、平日半X等により環境保全型の多業を実現できる可能性のある暮らし方と言えます。

（中略）

自然とのふれあいは、自然環境への知識を深めるのに加え、環境と私たちの生活を見つめ直し、環境問題を自分ごと化して考える機会でもあります。登山、ハイキング、キャンプ、シュノーケリング、バードウォッチング、自然観察等は、豊かな自然の恵みを享受するものであり、その恩恵がなければ楽しむことができないものです。

地域ぐるみで自然環境や歴史文化等の地域固有の魅力を観光客に伝えることにより、その価値や大切さが理解され、保全につながっていくことを目指していく仕組みを「エコツーリズム」と言います。観光客に地域の資源を伝えることによって、地域の住民も自分たちの資源の価値を再認識し、地域の観光のオリジナリティが高まるとともに、地域社会そのものが活性化されていくと考えられます。

近年では、環境に配慮した取組や地域の自然資源を活用した宿泊施設等も増えており、環境保全に取り組んでいる場所へ旅行することが、持続可能な地域づくりや自然資源の維持につながる可能性があります。

一方、2 自家用車による旅行、それに伴う観光道路の渋滞等は CO₂ 排出や大気汚染の原因になり、登山に伴うごみのポイ捨て等は自然環境に負担をかけることとなります。自然環境の受入れ容量を超える過剰な観光客の来訪により、自然環境や生活環境への負荷が生じる可能性もあることに留意が必要です。

出典：環境省『令和2年版 環境・循環型社会・生物多様性白書』

註釈：出題に当たり、論旨を損なわない範囲で、一部の文言を省略した。

[問題 1]

- (1) 下線部 1 が表す内容に基づくと、以下の文が表す内容を正しいと言えるか。適切な選択肢を選択し、解答欄に記号で記入しなさい。

「森林浴により、脳活動や交感・副交感神経活動がリラックスするため、ストレスが減少する。」

選択肢 A. 正しいと言える B. 正しいと言えない

- (2) 下線部 2 が表す内容と、以下の文が表す内容は同じか。適切な選択肢を選択し、解答欄に記号で記入しなさい。

「自家用車による旅行、それに伴う観光道路の渋滞等の結果、CO₂ 排出や大気汚染が生じることとなり、登山に伴うごみのポイ捨て等は自然環境に負担をかけることとなる。」

選択肢 A. 同じである B. 異なる

[問題 2]

課題文を参考に、自然環境に対する産業の関わり方について、あなたの考えを 600 字以内で論述しなさい。解答は解答欄に記入しなさい。

●総合型選抜 10月入試

【小論文】（試験時間：60分）

以下の課題文を読み、後の問題に解答しなさい。

【課題文】

1. ワンウェイプラスチック製容器包装・製品のリデュース

一人当たりのプラスチック容器包装の廃棄量を各国と比較すると、日本は米国に次いで多いとされています。また、消費者が、外食する際や、弁当や飲料を購入する際、プラスチック製の使い捨てストローやスプーン、フォーク等を利用することがあります。このため、プラスチック資源循環戦略においても、ワンウェイのプラスチック製容器包装・製品については、不必要に使用・廃棄されることのないよう、消費者のライフスタイル変革を促すこととされています。食品を持ち帰って家で食べるのであれば、店頭でフォークやスプーンを断ることは、ワンウェイプラスチックの使用量削減に効果的であるといえますし、マイボトルを持って外出することで、ペットボトルの使用量を減らすことができます。

消費者庁「消費者意識基本調査」（2019年度）で、日頃の買物で意識していることを聞いたところ、「容器や包装の少ないものを選ぶ」について意識している割合（「かなり意識している」＋「ある程度意識している」。以下同じ。）は35.7%にとどまりましたが、「弁当・惣菜などを購入するときに不要なフォーク・スプーンをもらわない」について意識している割合は63.5%でした。

2. レジ袋

消費者が、様々な商品を購入する際、レジでプラスチック製のレジ袋に入れて商品を渡されることが一般的です。レジ袋は、商品を持ち帰るだけでなく様々な用途があり、消費者にとって、とても身近なものであるといえます。

プラスチック資源循環戦略の中でも重点戦略の一つとして、「リデュース」等の徹底が位置付けられており、また、消費者のライフスタイルのイノベーション等を通じ、同戦略を推進していくこととしています。その取組の一環として、政府は、2020年7月からレジ袋有料義務化を全国で一律に開始することとし、それを通じて消費者のライフスタイル変革を促すこととしました。消費者がレジ袋を使わず持参したバッグを利用して商品を持ち帰る、いわゆる「マイバッグ運動」は、プラスチックごみ削減のために消費者が日常の消費行動でできる最も身近な取組といえますが、これまでも多くの消費者、地方公共団体、事業者等が取り組んでいます。

3. 代替品の利用

消費者庁「消費者意識基本調査」（2019年度）で、日頃の買物で意識していることを聞いたところ、「レジ袋をもらわない」について意識している割合は、56.2%でした。

そもそもプラスチック製品を使わない、捨てない、又はプラスチック使用量が少ない製品を選択することも、プラスチックごみ削減に効果的であるといえます。プラスチックは機能性に優れ、様々な面で人々の生活を支えているため、完全にプラスチック無しの生活をすることはできませんが、消費者がそれぞれの生活に合った形で、不必要なプラスチックの使用を減らしていくことが大切です。

註釈：出題に際し、論旨を損なわない範囲で、一部の文言を加除した。

出典：消費者庁「令和2年版消費者白書」

[問題 1]

- (1) 消費者庁「消費者意識基本調査」(2019年度)に基づき、以下の項目を「日頃の買物で意識している」(「かなり意識している」+「ある程度意識している」)割合が高い順に並べ替えなさい。解答は解答欄に記号で記入しなさい。
- A. 「容器や包装の少ないものを選ぶ」
 - B. 「弁当・惣菜などを購入するときに不要なフォーク・スプーンをもらわない」
 - C. 「レジ袋をもらわない」
- (2) 下線部 1 の訳語として最も適切な用語を、選択肢から選びなさい。解答は解答欄に記号で記入すること。
- A. 廃棄物の発生抑制
 - B. 再使用
 - C. 再資源化

[問題 2]

課題文では、プラスチックの使用を削減する方策を紹介している。この方策に対して、あなたはどのように考えるか。あなたの考えを論述しなさい。解答は解答欄に 600 字以内で記入すること。

●総合型選抜 12月入試

【小論文】（試験時間：60分）

以下の課題文を読み、後の問題に解答しなさい。

【課題文】

内閣府が郵送法により実施した調査では、最も高い年齢区分は70歳以上であることから、その調査結果をもとに高齢者のデジタル活用の現状を分析する。

まず、スマートフォンやタブレットの利用状況については、全体では、「よく利用している」又は「ときどき利用している」という回答の合計は77.8%である。年齢別に見ると、18～29歳では98.7%と、利用率がほぼ100%に近いのに対し、年齢が上がるにつれて利用率は低下し、60～69歳では73.4%、70歳以上はわずか40.8%にとどまっている。このように、高齢者はスマートフォンやタブレットの利用率が低く、特に70歳以上の高齢者の利用率が低くなっており、情報通信機器の利用状況は世代間格差が見られる。

では、これらの高齢者は、どうしてデジタル機器を利用しないのだろうか。上述の内閣府調査によると、スマートフォンやタブレットを「ほとんど利用していない」又は「利用していない」と回答した方に対し、利用していない理由について尋ねたところ、70歳以上においては、「自分の生活には必要ないと思っているから」（52.3%）、「どのように使えばよいかわからないから」（42.4%）、「必要があれば家族に任せればよいと思っているから」（39.7%）の順に多く、続いて、「情報漏洩や詐欺被害等のトラブルに遭うのではないかと不安だから」（23.2%）、「購入や利用にかかる料金が高いと感じるから」（16.6%）が多い。

このように、スマートフォンやタブレットに対する必要性を感じておらず、また、操作方法が分からない、必要であれば他人に任せればよいと考えている高齢者が一定数存在している。

しかし、新型コロナウイルス感染症拡大により社会経済上の様々な制約が生じている中でも、デジタルにより「人と接触を避ける」ことで、オンラインでの買い物、ビデオ会議等を通じた家族・友人等との交流が実施できる等、デジタルは生活の利便性を向上させることができる等の様々なメリットがある。デジタル活用が進まないことで、そのようなメリットを享受できなくなり、デジタル社会から取り残される可能性があるため、デジタル活用支援は重要な課題である。

註釈：出題に際し、論旨を損なわない範囲で、一部の文言を加除した。

出典：総務省（2021）「デジタル化の現状と課題」『令和3年版情報通信白書』

【問題1】

- (1) 下線部1の読み方を解答欄に平仮名で記入しなさい。
- (2) 下線部2の読み方を解答欄に平仮名で記入しなさい。

【問題2】

高齢者がスマートフォンを利用しやすくするために、通信事業者やメーカーは、どのようなサービスや機能を提供すれば良いであろうか。あなたの考えを論述しなさい。高齢者の抱えるどのような課題に対して、どのような効果を期待できるかを明示すること。解答は解答欄に600字以内で記入すること。

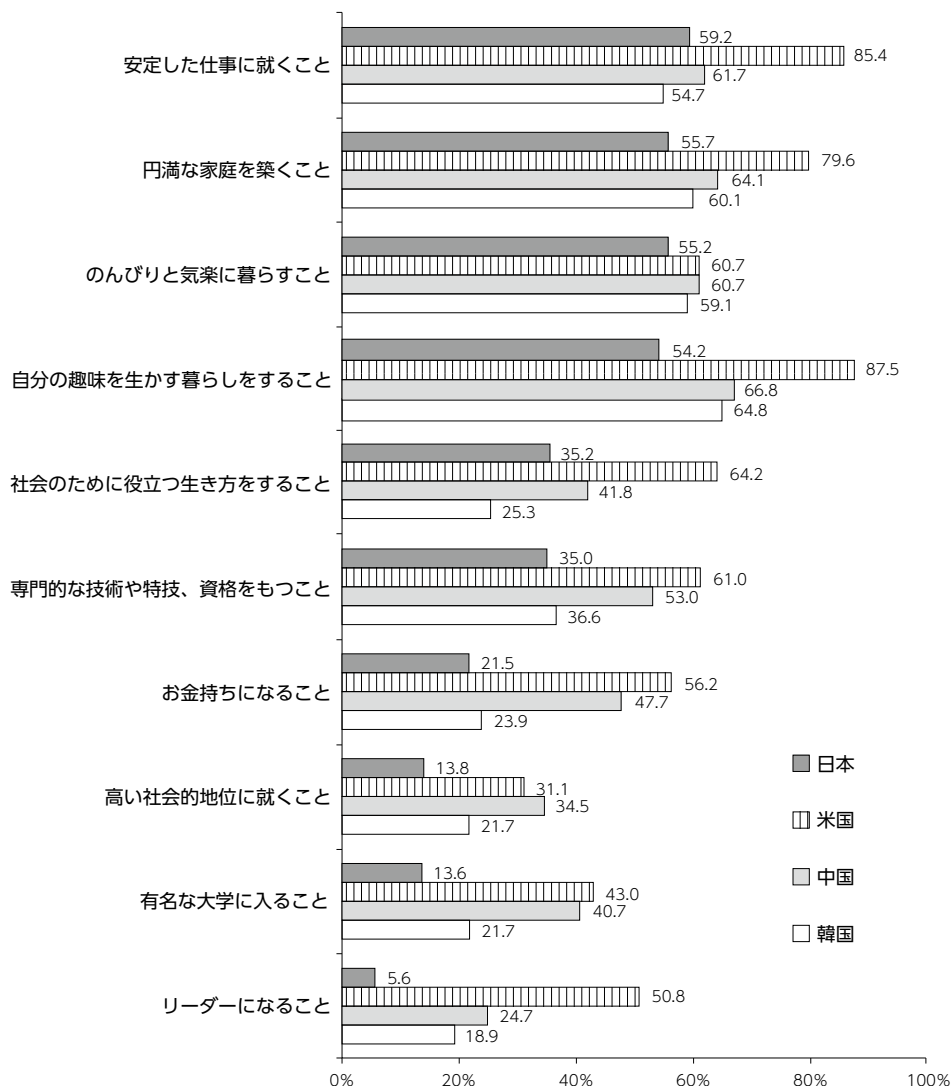
●学校推薦型選抜（公募入試／指定校入試）

【小論文】（試験時間：60分）

国立青少年教育振興機構は、日本、米国、中国、韓国の高校生を対象に、調査を行った。課題文は、そのうち人生目標に関する部分である。この課題文を読み、後の問題に解答しなさい。

【課題文】

図 将来、どのような目標をもっているか（「とてもそう思う」と答えた割合）



「将来、どのような目標をもっているか」について、図に示している10項目を挙げ、「とてもそう思う」「まあそう思う」「あまりそう思わない」「全くそう思わない」の4段階で回答してもらった。「とてもそう思う」と回答した者でみると、米国は、「安定した仕事に就くこと」「円満な家庭を築くこと」「自分の趣味を生かす暮らしをすること」「社会のために役立つ生き方をすること」「リーダーになること」の割合が高く、日中韓と大きな差がみられた。中国は、ほとんどの項目で米国に次いで高い。特に、「高い社会的地位に就くこと」が4か国中では最も高い。反対に、日本は10項目のうち、8項目の割合が4か国中最も低い。特に「高い社会的地位に就くこと」「リーダーになること」「有名な大学に入ること」は、他の3か国との差が大きい。韓国は、「安定した仕事に就くこと」「社会のために役立つ生き方をすること」の割合が4か国中最も低い。

註釈：出題に際し、論旨を損なわない範囲で、一部の文言を加除した。

出典：国立青少年教育振興機構（2017）「高校生の勉強と生活に関する意識調査報告書—日本・米国・中国・韓国の比較—」

【問題 1】

- (1) 中国人高校生で「とてもそう思う」と回答した者の割合が最も多い項目は何か。その項目名を解答欄に記入しなさい。
- (2) 日本と米国との間で、「とてもそう思う」と答えた割合の差が、最も小さい項目は何か。その項目名を解答欄に記入しなさい。

【問題 2】

あなたの人生目標を、課題文における日本人高校生の特徴と比較して、説明しなさい。はじめに、あなたの人生目標について、課題文の 10 項目の中から合致すると考えたものを 1 つ挙げ、なぜ合致すると考えたかを具体的に説明しなさい。次に日本人高校生の人生目標について、課題文から読み取れる特徴を要約しなさい。おわりに両者を関連付けて説明しなさい。解答は解答欄に 600 字以内で記入しなさい。

●外国人留学生入試

【小論文】（試験時間：60分）

以下の課題文を読み、後の問題に解答しなさい。

【課題文】

さて、なぜ、あなたは勉強するのでしょうか。普段は、勉強する理由なんて特に考えもせずに、勉強しているのかもしれませんが、ここでよく考えてみてください。

「そこに学問があるから！」なんてかっこよく答える人はいないと思いますが、勉強する理由は人によって異なり、さまざまなものがあります。

勉強する理由なんて、突然そんなことをいわれても困ると思っている人は、以下によくある「勉強する理由」を10個列記しましたので、あなたが勉強する理由として、最も近いものを一つ選んでみてください。複数当てはまる場合には、複数選んでもらっても構いません。

「勉強する理由」

- ① 面白くて楽しいから
- ② 新しいことを知りたいから
- ③ 先生や親に叱られるから
- ④ 先生や親に₁褒められるから
- ⑤ 勉強ができないと₂恥ずかしいから
- ⑥ 良い成績をとりたいから
- ⑦ 自分の夢や目標のために必要だから
- ⑧ 良い高校や大学に入りたいから
- ⑨ 自分の能力を高めたいから
- ⑩ 知識を得ることで幸せになれるから

出典：外山美樹「勉強する気はなぜ起こらないのか」筑摩書房

【問題 1】

- (1) 下線部 1 の読み方を解答欄に平仮名で記入しなさい。
- (2) 下線部 2 の読み方を解答欄に平仮名で記入しなさい。

【問題 2】

日本への留学生の多くは、何のために母国ではなく日本の大学で学習するのであろうか。主な理由を2種類挙げて、あなたの考えを論述しなさい。その際、課題文が挙げた理由と重なるものがあるかないかも述べる。解答は解答欄に400字以内で記入すること。

●編入学試験

【小論文】（試験時間：60分）

以下の課題文を読み、後の問題に解答しなさい。

【課題文】

1. 研究の背景

米国では大学編入が一般的に行われており、大学進学を希望する高校生のうち、4割がコミュニティ・カレッジ（2年制大学）に進学し、そのうちの約8割が4年制大学に3年次編入する。

日本では、米国ほど大学間の編入システムが整っていないが、編入生を受け入れる大学が増加傾向にある。高等専門学校（5年間）や2年間で総授業時間数1,700時間以上を修了した専門学校生は、大学への編入資格が得られ、4年制大学への編入が可能である。語学系の専門学校は大学編入対策講座等を提供し、専門学校からの大学編入学を促進している。専門学校の中には、毎年200名以上の学生を私立や国立の大学へ編入生として送り出す学校もある。今後、専門学校や高等専門学校からの編入生が増えた場合に備え、受入れ側となる大学においては、大学編入後の編入生に対するサポート体制の構築が急務である。

2. 本研究の目的

多くの大学が編入定員を拡大している中、受入れ側の大学には、編入生に対する様々なサポートが求められている。必要なサポートを明らかにするため、まず、専門学校や高等専門学校から4年制大学に編入した学生の編入動機や編入後の大学生活への適応等に関する実態調査を実施し、編入生と編入経験無しの大学生との間での共通点と相違点を分析する。その結果を踏まえ、編入生に対する大学のサポート体制の構築に向けた課題を明確にし、編入生を受け入れている大学に提言する。

（中略）

4. 調査結果

本調査での有効回答数は、281件である。回答の内訳は、専門学校経由の編入生112名（文系110名、理系2名）、高等専門学校経由の編入生83名（文系4名、理系79名）、編入経験無しの大学生は86名（文系のみ）であった。4年制大学編入動機や現在在籍する大学への入学動機、大学生活に関する各質問項目について、「強くそう思う＝1点」「ややそう思う＝2点」「あまりそう思わない＝3点」「全くそう思わない＝4点」の4段階評定で回答を求めた。その回答した得点を各項目の得点とし、各グループの平均値を求めた。

専門学校経由の編入生と高等専門学校経由の編入生の編入動機を比較したところ、平均値の差に大きな差はなかった。「教養の幅を広めたかったから」「社会に出た時、大卒の学歴が必要だと思ったから」の項目に対し、「強くそう思う」を選択した学生が専門学校経由と高等専門学校経由の両グループの編入生で多いことが示された。また、「就職に有利だと思ったから」の項目では、専門学校経由の編入生が高等専門学校経由の編入生よりも大学卒業後の就職について強く意識していることがわかった。

次に、大学生活についての項目の中で、平均値の大きな差が見られた項目は、「大学生活にすぐに馴染むことができた」「友人をすぐに作りやすい環境である」「入学後（編入後）に新しい友人を作ることが難しく、キャンパス内で孤独を感じる時がある」の3項目であり、専門学校経由の編入生は大学生活に馴染むことが難しく、友人も簡単に作ることでいけない傾向があることがわかった。また、「自分の意志で編入したが、様々な理由から退学を考えたことがある」という項目において、専門学校経由の編入生は、「強くそう思う」「ややそう思う」と回答した学生が多いことが示された。

註釈 出題に際し、論旨を損なわない範囲で、一部の文言を加除した。

出典 天木勇樹（2018）「専門学校と高等専門学校卒業生の4年制大学編入動機とキャンパスライフの比較分析」

【問題1】

- (1) 下線部1において比較対象となっているグループを、3種類挙げなさい。解答は解答欄に40字以内で記述しなさい。
- (2) 下線部1の原因は何か。あなたの考えを160字以内で説明しなさい。

【問題2】

下線部2で指摘した困難を解消するため、四年制大学はどのような支援を行うべきか。あなたの考えを論述しなさい。解答は解答欄に600字以内で記入すること。

●一般選抜 D日程入試

【総合型問題（学部学科別）】（試験時間：60分）

以下の資料を読み、後の問題に解答しなさい。

〔資料1〕

日本から毎年排出される廃プラスチックのうちレジ袋が占める割合は2%程度と言われており、プラスチックごみ全体の量から見ればごく僅かである。しかし、レジ袋は、我々の生活の中に深く浸透し、我々の生活の中にある使い捨てプラスチックを象徴するものと言える。今般のレジ袋有料化の真の目的は、レジ袋を有料化することではなく、そのレジ袋の有料化をきっかけに（レジ袋以外のものも含めて）使い捨てプラスチックに頼った国民のライフスタイル変革を促していくことである。国民の皆様にはこの制度趣旨を是非御理解いただき、不必要な使い捨てプラスチックの削減の御協力をお願いしたい。

また、レジ袋の排出抑制の取組は、これまでも地方自治体や環境意識の高い事業者等において実施されてきた。本年7月1日から全国一律でレジ袋有料化が開始されるが、引き続き、地方自治体や事業者等の皆様におかれては、それぞれの実情を踏まえ、レジ袋を始めとする使い捨てプラスチックの更なる排出抑制に向け、創意工夫ある取組を積極的に行っていただきたい。

出典：環境省「レジ袋有料化について」

<https://www.soumu.go.jp/kouchoi/substance/chosei/rejibukuro.html>

（最終閲覧日 2022年2月13日）、表記を一部改変した。

〔資料2〕

環境省は、本年7月1日からのレジ袋有料化をきっかけに、プラスチックごみ問題について考えて頂き、日々の買い物でマイバッグを持参して、“レジ袋はいりません”、“レジ袋は結構です”と辞退することが当たり前になる、そういった一人一人のライフスタイルの変革を目指すキャンペーン「みんなで減らそう レジ袋チャレンジ」を展開してまいりました。

キャンペーンでは、「2020年3月時点で、レジ袋を1週間使わなかった人が約3割だったのを、12月で6割にすること」を目標として活動してきましたが、今回10～70代男女、2,100人を対象に再調査を行った所、目標を遥かに超える71.9%という結果になりました。

（中略）

●プラスチックごみ問題への関心が高まったことで、どのような行動や意識の変化がありましたか。（いくつでも） (n=2,100)	
マイバッグ（エコバッグ）を購入した	27.1%
もともと持っていたマイバッグを、さらに使うようになった	75.1%
レジ袋以外のプラスチック製品の使用も控えるようになった	16.7%
レジ袋以外のプラスチック製品のリサイクルに協力するようになりごみの分別を、以前より行うようになった	22.9%
周りの人とプラスチックごみ問題について話し合うことがあった	3.0%
海の生き物への影響を気にするようになった	21.5%
CO ₂ 排出など他の環境問題も意識するようになった	15.8%
その他：	1.0%

資料 下記文献に基づき作表した。

出典：環境省「令和2年11月レジ袋使用状況に関するWEB調査」

<http://plastics-smart.env.go.jp/rejibukuro-challenge/pdf/20201207-report.pdf>

（最終閲覧日 2022年2月13日）、表記を一部改変した。

[資料3]

「レジ袋有料化で万引き件数増加、その理由は…」

7、8月各月の万引きの認知件数が1～6月平均よりも増えたことが静岡県警生活安全企画課のまとめで分かった。県警は、レジ袋が7月に有料化され、買い物でエコバッグを持参する消費者が増えたことが背景にあるとみている。今月14日には小売店などの責任者を集めた防犯責任者対策会議が静岡市内で開かれ、万引きされにくい店舗づくりを話し合った。

生活安全企画課によると、1～6月の万引きの認知件数は月平均で188件だったのに対し、7月が213件、8月が222件となった。客がバッグを持参し、精算前に商品を袋に入れて会計を済ませたように装うケースがあるという。

14日の対策会議の報告によると、店に精算済みの商品が入った袋を忘れた高齢者がいた。店員が袋の中にあったレシートと商品を照らし合わせると、精算していない商品も入っていた。高齢者に事情を聞くと、万引きを認めたという。

会議で講師を務めた静岡大教職センターの方が2009年まで万引き件数が全国ワーストだった香川県の対策事例を紹介し、「店での客への声かけが大切」などと、万引きされにくい店舗のポイントを指摘した。県警生活安全企画課の鈴木剛課長は、「万引き被害は全刑法犯に占める割合が大きく、数を減らすのが課題だ」と話した。

出典：「レジ袋有料化で万引き件数増加、その理由は…」『読売新聞』2020年10月19日、読売新聞オンライン、

<https://www.yomiuri.co.jp/national/20201018-OYT1T50220/>

(最終閲覧日2022年2月13日)、表記を一部改変した。

[問題1]

- (1) レジ袋有料化の目的を、資料から抜き出さない。解答は解答欄に20字以内で記入すること。
- (2) (1)の目的を果たすことができたか否かについて、資料に基づいて根拠を挙げて説明しなさい。解答は解答欄に100字以内で記入すること。

[問題2]

レジ袋有料化の是非について、資料1から資料3までを用いて、議論を組み立てなさい。解答は解答欄に500字以内で記入すること。

● 出題意図

総合型選抜 9月入試【出題意図】

持続可能な開発目標（SDGs）をいかにして企業経営に取り込んでいくかは、持続的な企業価値の向上の観点から重要である。SDGsの第15の目標は「陸の豊かさを守ろう」であり、森林を持続可能な形で管理することもまた解決すべき社会課題と言える。この課題を解決するには、様々な立場から検討することが期待される。

受験生には、このような時事的な問題に関心を持つこと、日常生活の身近な経験から社会問題へと関心を広げていくことを、期待している。そこでこの問題では産業の自然環境に対する取り組みを説明する課題文を呈示し、考察させた。

出典 環境省『令和2年版 環境・循環型社会・生物多様性白書』

<https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/r02/index.html>（最終閲覧日 2021年8月20日）

註釈 出題に当たり、論旨を損なわない範囲で、一部の文言を省略した。

[問題1]

(1) B (2) A

[問題2]

この問題では三つの観点から解答を評価する。

第一は、課題文の理解度である。課題文が主張する意味を正確に判断できる程度を査定する。課題文を理解するには、社会の動向に関心に向け、知識を獲得する必要がある。また課題文を読解するため、技能を有している必要がある。

第二は、考察の妥当性である。既有的知識と課題文の説明を組み合わせ、新たな考えを産出している程度を査定する。自ら課題を発見し探究する思考力・判断力を評価する。

第三は、文章表現の適切性である。知的文章として適切に表現している程度を査定する。説得力をもって主張を表現するための表現力を評価する。

総合型選抜 10月入試【出題意図】

海洋プラスチックごみは世界的な問題となっている。プラスチックは利便性が高く、日常生活の中で広く利用されている。しかし適切に処理されことなく海に流入することが多い。分解されないため、生態系に悪影響を及ぼすと言われる。プラスチックごみの削減は、解決すべき社会課題と言える。

受験生には、このような時事的な問題に関心を持つこと、日常生活の身近な経験から社会問題へと関心を広げていくことを、期待している。そこでこの問題では自然環境に対する取り組みを説明する課題文を呈示し、考察させた。

出典 消費者庁『令和2年版消費者白書』

https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_research/white_paper/2020/white_paper_138.html（最終閲覧日 2021年10月14日）

註釈 出題に当たり、論旨を損なわない範囲で、一部の文言を加除した。

[問題1]

(1) ① B. ② C. ③ A（順序がすべて合っている場合に正解） (2) A

[問題2]

この問題では三つの観点から解答を評価する。

第一は、課題文の理解度である。課題文が主張する意味を正確に判断できる程度を査定する。課題文を理解するには、社会の動向に関心に向け、知識を獲得する必要がある。また課題文を読解するため、技能を有している必要がある。

第二は、考察の妥当性である。既有的知識と課題文の説明を組み合わせ、新たな考えを産出している程度を査定する。自ら課題を発見し探究する思考力・判断力を評価する。

第三は、文章表現の適切性である。知的文章として適切に表現している程度を査定する。説得力をもって主張を表現するための表現力を評価する。

総合型選抜 12月入試【出題意図】

1990年代後半より、パソコン、インターネットや携帯電話などの情報通信技術が急速に普及してきた。インフラストラクチャーは整備され、デジタル化が進展してきた。しかし高齢者においてはデジタル化に対して不安が強く、必ずしも普及していない。これは解決すべき社会課題と言える。

受験生には、このような時事的な問題に関心を持つこと、日常生活の身近な経験から社会問題へと関心を広げていくことを、期待している。そこでこの問題ではデジタル化に対する取り組みを説明する課題文を呈示し、考察させた。

出典 総務省(2021)「デジタル化の現状と課題」『令和3年版情報通信白書』

<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r03/pdf/n1100000.pdf>

註釈 出題に当たり、論旨を損なわない範囲で、一部の文言を加除した。

[問題1]

- (1) ろう (2) きょう

[問題2]

この問題では三つの観点から解答を評価する。

第一は、課題文の理解度である。課題文が主張する意味を正確に判断できる程度を査定する。課題文を理解するには、社会の動向に関心を向け、知識を獲得する必要がある。また課題文を読解するため、技能を有している必要がある。

第二は、考察の妥当性である。既存の知識と課題文の説明を組み合わせ、新たな考えを産出している程度を査定する。自ら課題を発見し探究する思考力・判断力を評価する。

第三は、文章表現の適切性である。知的文章として適切に表現している程度を査定する。説得力をもって主張を表現するための表現力を評価する。

学校推薦型選抜（公募入試／指定校入試）【出題意図】

青年にとって進路の選択は、重要な発達課題である。しかし成功するための明確な方法があるわけではなく、思い悩む青年もいる。進路の選択に際して、個人が人生目標を定めることは、その出発点となる。それではどのように目標を定めるべきであろうか。そこでこの問題では人生目標に関する課題文を呈示し、自らの目標を同定し評価させた。

出典 国立青少年教育振興機構(2017)「高校生の勉強と生活に関する意識調査報告書—日本・米国・中国・韓国の比較—」

http://www.niye.go.jp/kenkyu_houkoku/contents/detail/i/114/ (最終閲覧日 2021年10月23日)

註釈 出題に当たり、論旨を損なわない範囲で、一部の文言を加除した。

[問題1]

- (1) 自分の趣味を生かす暮らしをすること。 (2) のんびりと気楽に暮らすこと

[問題2]

この問題では三つの観点から解答を評価する。

第一は、課題文の理解度である。課題文が主張する意味を正確に判断できる程度を査定する。課題文を理解するには、生き方に関心を向け、知識を獲得する必要がある。また課題文を読解するため、技能を有している必要がある。

第二は、考察の妥当性である。既存の知識と課題文の説明を組み合わせ、新たな考えを産出している程度を査定する。自ら課題を発見し探究する思考力・判断力を評価する。

第三は、文章表現の適切性である。知的文章として適切に表現している程度を査定する。説得力をもって主張を表現するための表現力を評価する。

外国人留学生入試【出題意図】

海外へ留学するためには様々な障壁がある。留学生は、その障壁を乗り越えてなお学習したいという意欲を持っている。その意欲とはどのようなものか。

そこでこの問題では学習意欲に関する課題文を呈示し、考察させた。

出典 外山美樹『勉強する気はなぜ起こらないのか』筑摩書房

ISBN:978-4480683977, pp.17-19.

註釈 出題に当たり、論旨を損なわない範囲で、一部の文言を加除した。

[問題 1]

(1) ほ (2) は

[問題 2]

この問題では三つの観点から解答を評価する。

第一は、課題文の理解度である。課題文が主張する意味を正確に判断できる程度を査定する。課題文を理解するには、学習に対して考察する必要がある。また課題文を読解するため、技能を有している必要がある。

第二は、考察の妥当性である。既存の知識と課題文の説明を組み合わせ、新たな考えを産出している程度を査定する。自ら課題を発見し探究する思考力・判断力を評価する。

第三は、文章表現の適切性である。知的文章として適切に表現している程度を査定する。説得力をもって主張を表現するための表現力を評価する。

編入学試験【出題意図】

社会で求められる人材は、高度化・多様化している。教養・知識等に加え、課題発見・探求のための批判的思考力や判断力、チームワークやリーダーシップを発揮して社会的責任を担い得る倫理的・社会的能力などを育成することが求められている。このため、短期大学などから四年制大学への編入学も、拡大していくと考えられる。一方で編入学に伴う困難も報告されている。

そこで受験生には編入学に関する論文を提示し、大学が採るべき支援策を検討させた。

出典 天木勇樹(2018)「専門学校と高等専門学校卒業生の4年制大学編入動機とキャンパスライフの比較分析」『日本教育学会大会研究発表要項』,77,pp.123-124.

註釈 出題に当たり、論旨を損なわない範囲で、一部の文言を加除した。

[問題 1]

基礎的な読解力を問う。

[問題 2]

この問題では三つの観点から解答を評価する。

第一は、課題文の理解度である。課題文が主張する意味を正確に判断できる程度を査定する。課題文を理解するには、社会の動向に関心を向け、知識を獲得する必要がある。また課題文を読解するため、技能を有している必要がある。

第二は、考察の妥当性である。既存の知識と課題文の説明を組み合わせ、新たな考えを産出している程度を査定する。自ら課題を発見し探究する思考力・判断力を評価する。

第三は、文章表現の適切性である。知的文章として適切に表現している程度を査定する。説得力をもって主張を表現するための表現力を評価する。

一般選抜 D日程入試【出題意図】

環境問題は解決すべき社会課題であり、様々な施策が実施されている。レジ袋の有料化もその一つである。国はレジ袋の有料化をきっかけに、使い捨てプラスチックに頼った国民のライフスタイル変革を促していくことを目指している。受験生には、このような時事的な問題に関心を持つこと、日常生活の身近な経験から社会課題へと関心を広げていくことを、期待している。そこでこの問題ではレジ袋有料化に関する課題文を呈示した。

施策は一般に、目的として目指す効果も生じれば、目的以外の影響も生じる。施策の評価は、両者を総合的に判断する必要がある、論理的な思考力が求められる。そこでこの問題では、施策を実施するまでの経緯、肯定的な結果、否定的な結果を課題文として呈示した。その上で、論理的な議論を構築させた。

出典 環境省「レジ袋有料化について」

<https://www.soumu.go.jp/kouchoi/substance/chosei/rejibukuro.html>

(最終閲覧日 2022 年 2 月 13 日)、表記を一部改変した。

環境省「令和 2 年 11 月レジ袋使用状況に関する WEB 調査」

<http://plastics-smart.env.go.jp/rejibukuro-challenge/pdf/20201207-report.pdf>

(最終閲覧日 2022 年 2 月 13 日)、表記を一部改変した。

「レジ袋有料化で万引き件数増加、その理由は…」『読売新聞』2020 年 10 月 19 日、読売新聞オンライン、

<https://www.yomiuri.co.jp/national/20201018-OYT1T50220/>

(最終閲覧日 2022 年 2 月 13 日)、表記を一部改変した。

[問題 1]

基礎的な読解力を問う。

[問題 2]

この問題では三つの観点から解答を評価する。

第一は、課題文の理解度である。課題文が主張する意味を正確に判断できる程度を査定する。課題文を理解するには、社会の動向に関心を向け、知識を獲得する必要がある。また課題文を読解するため、技能を有している必要がある。

第二は、考察の妥当性である。既存の知識と課題文の説明を組み合わせ、総合的に評価している程度を査定する。多様な情報から論理を組み立てる思考力・判断力を評価する。

第三は、文章表現の適切性である。知的文章として適切に表現している程度を査定する。説得力をもって主張を表現するための表現力を評価する。